

## 新理事としての就任あいさつ

### 理事長に就任して

理事長(美10)加藤 勇治

さる5月27日の総会で理事長に選任され、重責に押しつぶされながら新職務に挑戦しております。グループわは昨年設立後10年の節目の年を迎えましたが、諸先輩や関係先の数多くの方々のご尽力で、今や会員数1000名を超える市内有数のボランティア団体として各方面から注目される存在となってきました。殊に「他のために」の実践を目指すシニアパワーには行政をはじめ各方面から熱い期待が寄せられています。わには有能な方が数多くボランティア志願者として登録されています。少子高齢化が進む社会にあって、経験ゆたかなシルバー人材を擁するわの活動は今後ますます重要性を増すに違いありません。一人でも多くの方がボランティア活動に加わり、ともに汗を流し、ボランティア先に喜んでいただける、そんな「環境づくり」、「体制づくり」に理事長として全力投球する決意です。

昨年、私たちは「業務刷新委員会」を編成し事業全般について見直し作業を行いました。そのなかで、私たちが今後事業運営の拠り所とすべき「基本理念」について検討を重ねました。理事長として以下の基本理念5項目を念頭に、これからの事業運営に当たってまいりたいと考えています。

**1. 「市民の方々が真に求める活動(事業)を誠実に実践する。」**(最優先すべき使命)

「とどけたい、あなたのもとへわの愛を」(10周年記念標語)を合言葉に会員は市民のために様々な活動(事業)に携わっています。市民の皆さんが求める活動を誠実に遂行することこそが最優先すべき使命です。

**2. 「地域の方々との交流と地域に密着した活動を推進する。」**

設立当初から「地域交流と地域社

会への貢献」が求められてきました。区会を中核とする地域社会への貢献は今後とも力を入れるべき重点課題です。

**3. 「常に人材(会員)の確保、増強を図り、事業の安定的継続的推進を期す。」**

“わ”の会員も高齢化が進み、毎年若返りを余儀なくされています。行政からの委託事業も増え、事業の公共性が一段と高まってきました。それだけに人材の確保、増強はシルバー人材で成り立っているわにとっては極めて重要なテーマです。

**4. 「組織の活性化を図り、事業運営の効率化、健全化を推進する。」**

事業内容が多様化し、会員数が4~5年もすると2,000名を超えると予想されるなかで、組織の活性化、効率化、健全化は最重要課題となることは否めません。

**5. 「会員相互の融和促進と“やりがい”が実感できる組織風土づくりを推進する。」**

チームワークと“やりがい”づくりは組織運営の根幹をなす重要命題です。組織活性化の精神的土台となるだけに常に組織を挙げて取り組む必要があります。

「再び学んで他のために」を実践するにはまだまだ未熟で経験不足ですが、皆さん方と力を合わせ 総力戦で各方面からの期待に応えてまいりたいと思います。わの活動が市民の皆さんから感謝され、また会員一人一人にとって、人生の活力となることを願ってやみません。

### 郷前理事長にわ顧問を委嘱

全理事の承認を得て、平成20年6月1日付で郷 肥三前理事長にグループわ顧問を委嘱しましたので本誌をお借りしてお知らせします。

### わの組織力強化

副理事長(生9)西田圭一

昨年に財務担当理事になり、財政面をみると、ここ2,3年で飛躍的に拡大し、安定しつつあるが、一方、経営地盤である組織面では、現在1000人以上の会員を有する大規模な組織であるが、任意団体の頃のままの、いわゆる個人主義の面が多々あり、成り行き管理で部会、区会等がバラバラの運用を行っており、本部としての指導性(統率力)が発揮されていない。

実施事業は、あと2年先には契約切れ及び1年ごとの契約内容で収入が安定している状況ではない。今後わの存続を確固たるものにするには、会費だけでは何も出来ないので、実施事業を拡大または助成金の確保しかあり得ない。その為には本部(理事)の役割は重大で、且つ法的、社会的責任を負うこと大である

現在、理事が2~3年で交代しているが、経営基盤が確立していない状況から見て、企画力不足で大変不安定な経営集団(理事)であると思う。

そういう面で、本年副理事長になり、理事長を補佐する立場として経営基盤を強化すべく全力を注がなければならぬ。ものごとは、一長一短では片付かないが経営強化のためには、今まで手つかずの問題点を多少の軋轢があっても一つ一つ解決を図り、会員の総力を結集できるような組織を作り、組織力を高めていきたい。会員の皆様の協力をお願いします。

### 伝承人として

副理事長(福11)藤田勝

グループわが誕生して10周年を迎える年に入会させていただきました。わの活動が始まりました。記念事業活動を通して、先輩諸氏との交流の中で色々な事を学ぶことができました。また、本部主催の行事にはできうる限り参画・参加させてもらい視野を広げるこ  
(次ページに続く)